



大阪ガス

ガステーブルコンロ

取扱説明書

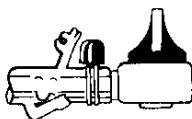
10-287型

保証書付

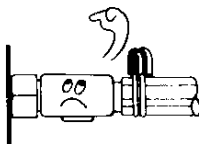
型式の呼び LG-305G



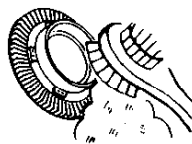
ガス器具をお使いになる時のご注意



ガスゴム管も
ときどき点検
よいゴム管を
カッチリと



ガス器具を
お使いになった
あとは必ず
もとせんも閉
める習慣を



毎日使う
ガスコンロの
ハーナーなど器具も
ときどきお手入れを



ガス器具は
ガスの種類にあった
正しいものを

●ご使用前に必ずこの説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

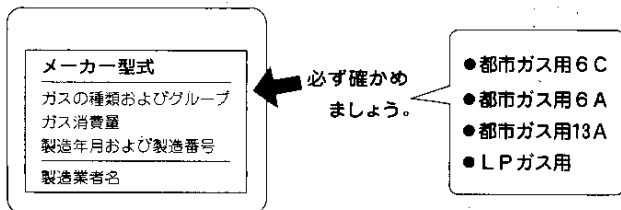
特に注意していただきたいこと

安全に正しくお使いいただくために、この項は必ずお読みください。

使用ガスについてのご注意

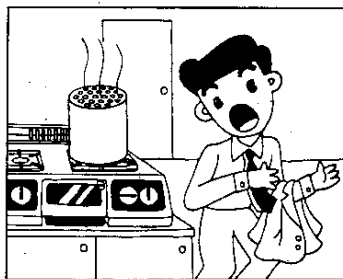
- ガスの種類を確かめてください。
 - ・ガス器具本体の右側面にはってある銘板(ラベル)に表示のガスの種類とお宅のガスが一致しているかをまず確かめてください。
 - ・ガスの種類には都市ガスとLPガスとがあり、都市ガスにはガスグループの区分があります。
 - ・転宅されたときにも、供給ガスの種類と器具銘板のガスの種類の一致を必ず確かめてください。

銘板



用途についてのご注意

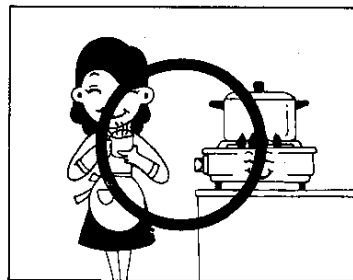
- 調理以外の用途(炭・煉炭おこし・衣類の乾燥など)には使用しないでください。
過熱・異常燃焼などによる焼損、火災などの危険があります。



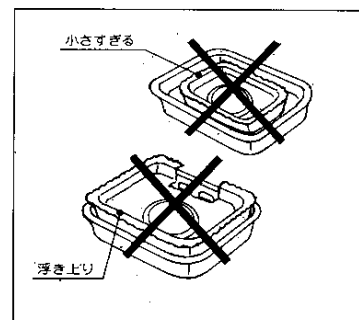
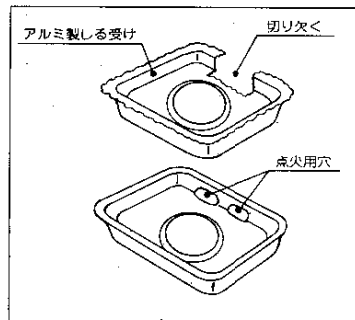
特に注意していただきたいこと②

市販の補助用具使用についてのご注意

- 極端に大きな鉄板やなべ、熱を逃がさないようにするためのなべ枠、または不良の補助用具などで炎をふさいで使うことはさけてください。
不完全燃焼をおこしたり、器具を異常に過熱し危険です。



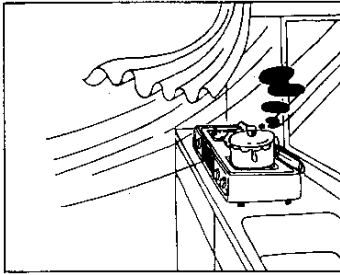
- 市販のアルミ製のしる受けをお使いになる場合は、次の点にご注意ください。
 - ・しる受け横部の点火用穴をふさがないように大きく切り欠いてください。この穴をふさぐと点火できなくなります。
 - ・しる受けに十分なじませてください。浮き上ったり、しる受けより小さいものを使うと不完全燃焼の原因になります。



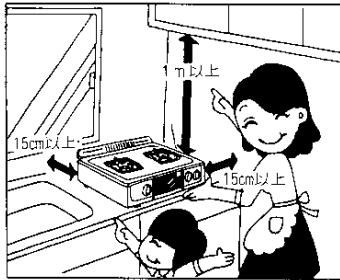
特に注意していただきたいこと ③

使用場所についてのご注意

- 強い風の吹き込む所では使用しないでください。
炎が風で吹き消えることがあります。
- 棚の下など、落下物の危険のあるところでは使用しないでください。



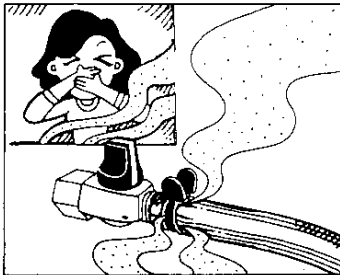
- テーブルコンロの周囲が木材のような可燃性の壁面の場合は、過熱を防ぐため左右及び後面ともに15cm以上、上方は1m以上離してお使いください。



使用上のご注意

ガス漏れ予防

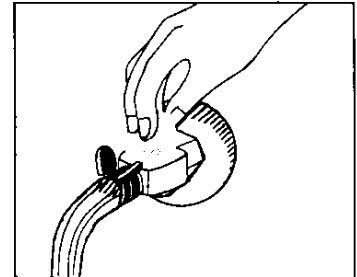
- ゴム管はガス用ゴム管を使用し、ビニール管は絶対に使用しないでください。
ビニール管は弾力性がなく、熱にも強くありません。
- ゴム管は良質のものを買い、時々とりかえてください。(ゴム管の寿命は約3年です。)
ゴム管が古くなりますと、元せんや器具のホースエンドから抜けやすくなったり、ヒビ割れてガス漏れの原因になり危険です。



特に注意していただきたいこと ④

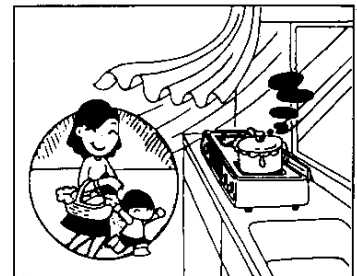
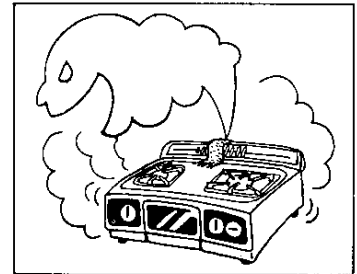
使用上のご注意

- 器具をご使用にならないときや外出前、またおやすみ前には万一の事故がないように、必ず元せんをしめてください。
- 使用中は決して外出しないでください。
バーナーの火が風や煮こぼれで消えたりして危険です。
- 使用後は必ず器具せんを閉じ、消したことを確かめてください。
- 使用中には時どき正常に燃焼していることを確かめてください。



火災予防

- グリル使用中、後部の排気口の上に物をのせないでください。
不完全燃焼や異常過熱の原因になります。
- 器具の上やそばに燃えやすいもの(紙、カーテン、家具、揮発油など)を絶対においたり近づけたりしないようにしてください。
- 火をつけたまま就寝、外出は絶対にしないでください。



やけどのご注意

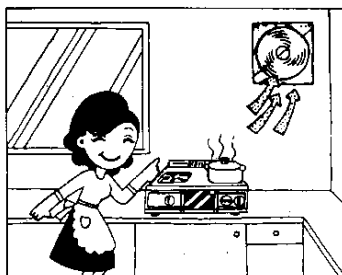
- ご使用中および使用直後は、器具本体とその周辺は熱くなりますので、手を触れたりしないでください。特に小さなお子様がいるご家庭はご注意ください。



- ご使用中グリル水入ざらを出し入れされるときは、必ず付属のグリル用としてお使いください。
ぬれふきんなどで持つとやけどするおそれがあります。

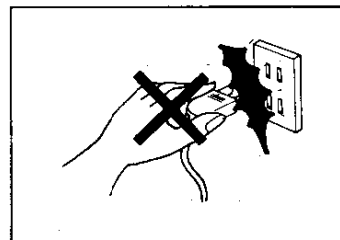
換気のご注意

- ご使用と同時に換気扇を回すなど換気にご注意ください。
ガスが正しく燃えるためには、ガスの6倍もの空気が必要です。しめきった部屋で長時間使用すると空気中の酸素が減少し、不完全燃焼による一酸化炭素中毒の危険があります。



ガス事故防止

- ガス漏れに気づいたときは、すぐ使用をやめてガス元せんを閉じ、窓や戸を全部あけて、大阪ガス支社または大阪ガスサービスステーションに連絡してください。



(ご注意)

万一ガスが漏れたときは、絶対に火をつけたり換気扇その他電気器具にふれたりしないでください。(スイッチの入切や電源プラグの抜き差し等) 火や火花で引火し爆発事故を起こすことがあります。

異常時の処置

- ご使用中にふだんと違った状態になったときや、不都合が生じたときはそのままお使いにならず、直ちにご使用を中止(器具せん、ガス元せん閉止)して十分な点検をお願いします。
[故障・異常の見分け方と処置方法については21ページをお読みください]

日常の点検・手入れ

- 器具を安全、快適にお使いいただくために、日常の点検、手入れは必ず行ってください。(詳しくは18ページをお読みください)
- 故障又は破損したと思われるものは使用しないでください。不完全な修理は危険です。
- 万一具合が悪くなって処置に困るような場合は、大阪ガスサービスショップまたは大阪ガス支社にご連絡ください。

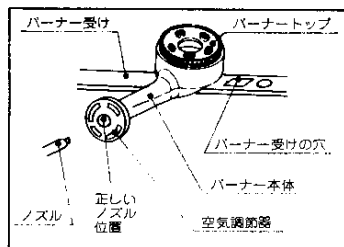
器具の設置

設置前の準備と確認

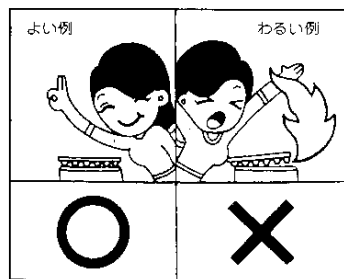
- 各部分のあて紙や包装部品を取り除き、“各部の名称”のように正しく粗立ててください。
- 器具銘板の表示ガス(ガスグループ)とご使用になるガスとが一致しているかご確認ください。

部品の取り付け

- バーナー本体の取り付けは、ノズルを図の正しいノズル位置(中央部の穴)にはめて、ウラ面の突起をバーナー受けの穴にはめると正しい位置になります。正しい位置になっているか必ずご確認ください。大きい方(ハイカロリバーナー)が左側、小さい方(標準バーナー)が右側です。



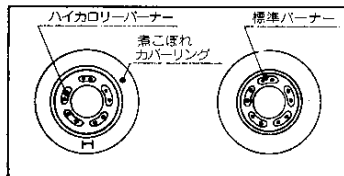
- バーナートップはギザギザが下になるようにはめ込んでください。またバーナー本体より浮き上がらないように2~3回バーナートップを回して確実にはまっているか確認してください。



〈ご注意〉

バーナートップは右(標準バーナー)と左(ハイカロリバーナー)は異なりますので、左右間違いのないように取りつけてください。

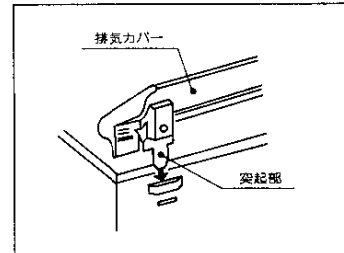
- 煮こぼれカバーリングもバーナートップと同様、左右異なります。内径の大きい方(H)が左側、小さい方が右側で、正しく取り付けてください。



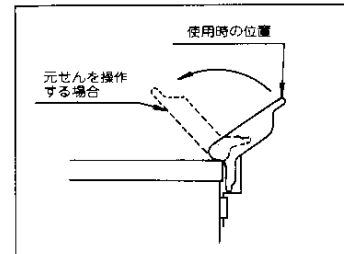
器具の設置 ②

部品の取り付け

- 排気カバーは排気温による後壁面の過熱防止のため必ず取り付けてください。排気カバーの突起部を器具後面の左右切込み穴へ挿入し、排気カバーがトッププレートに十分当るまで差し込んで固定してください。



- この排気カバーは可動式になっております。ガスの元せんが器体の後側にある場合、元せんの開閉が容易にできるように、排気カバーは前方向に倒すことができます。



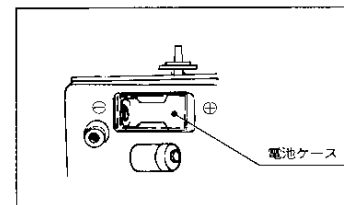
〈ご注意〉

使用中および使用直後は熱くなります。特に排気口部分は高温になりますのでご注意ください。

- 点火用の電池は電池ケース(器具下部の左前にあります)にはめこんでください。電池は単1(1.5V)1個使用です。

〈ご注意〉

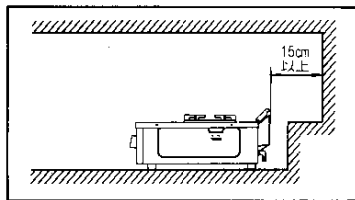
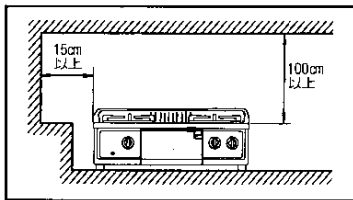
- 電池が正しくセットしており、電池が消耗していない場合は点火操作時に電池確認ランプが明るく光ります。
- 電池確認ランプが点滅したり光らなくなったら電池が消耗していますので点火しにくくなります。新しい電池におとりかえください。



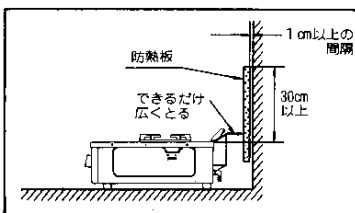
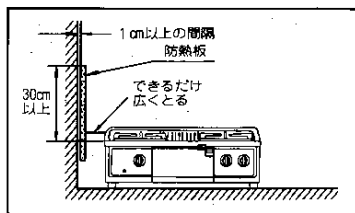
器具の設置 ③

設置上のご注意

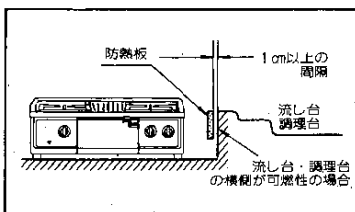
- 丈夫で水平なガス台上に設置してください。
- 耐久性などの点からできるだけ湿気の少ないところを選んでください。
- 周囲に可燃物(木製の壁、たななど)のある場合
- ・ トッププレートより上の側面及び背面は木製のような可燃性の壁から15cm以上離してください。可燃性の壁にステンレス板などを張ってある場合も同様です。また上部は器体上面から100cm以上離して使用してください。(但不燃性の場合は80cm以上) —— (火災予防条例で定められております)



- 可燃性の壁(ステンレス板等を張りつけた可燃性の壁も含む)から15cm以上離して設置できない場合
- ・ 図のように必ず別売の防熱板(コードNo. 15-100-0084~6)を取り付けて使用してください。



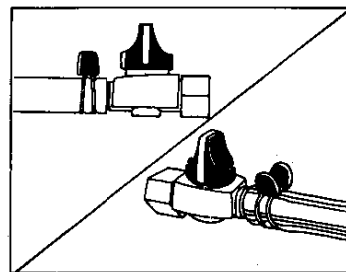
- 可燃性の壁面の高さが30cm以下の場合は図のように取り付けてください。



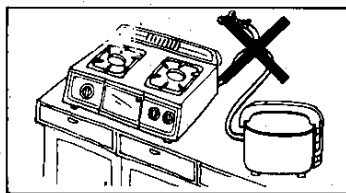
器具の設置 ④

ゴム管の接続

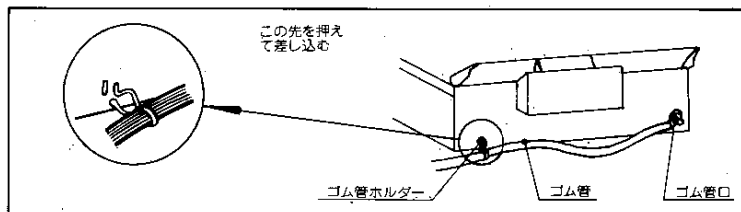
- ゴム管は赤線まで差し込んでしっかりとめてください。9.5mmのゴム管を使用し、お部屋の元せん、器具のホースエンドともゴム管口の赤線まで十分差し込んで、ゴム管止めでしっかり止めてください。ゴム管止めでしっかり止めていないと、知らずにはずれかけてガスもれが生じることがあり危険です。



- ゴム管はガス用ゴム管を用い、折れたりねじれたりしないよう、できるだけ短かくし、また器具の下を通したり、器具に触れないようにしてご使用ください。
- ゴム管の継ぎたしおよび二又分岐はしないでください。



- ゴム管が器具後部を横切る場合は、付属のゴム管ホルダーにゴム管を通し、図のように器体後部の穴に差し込んで固定してください。



使用手順

はじめてお使いのとき

- はじめてお使いになるときは、必ずグリル水入ざらに水を入れ、12～15分の間から焼きをしてください。油を焼ききるため、煙と臭いが出ますが異常ではありません。

点火前の準備と確認

- 器具の近くに紙、プラスチック、油類など燃えやすいものが置いていないことを確認してください。
- 器具せんつまみが「止」の位置にあることを確認したのち、ガス元せんを全開にしてください。
- グリルをお使いになるときは、グリル水入ざらに水(コップ1杯強 約200cc)を入れてください。

点火(こんろ部・グリル部)



①押して ②そのまま回す

- 器具せんつまみを押しながら「止」の位置より左へ「開」の位置までまわすと電池確認ランプがつき、「パチパチ」とスパークして点火します。

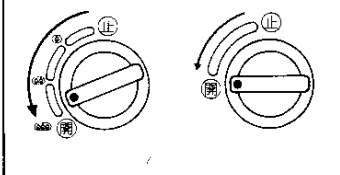
- 点火を確かめてから手をはなしてください。(途中で手を休めると点火しないことがあります。)

〈ご注意〉

- 万一点火しないときは、器具せんつまみを一旦もとに戻して、あらためて点火の操作をしてください。
- しばらく使わないで点火するときはゴム管内に空気が入って点火しにくいことがあります。この場合は、空気が抜けるまで数回点火操作を繰り返してください。
- グリル点火時は必ずグリルとびらをあけて点火してください。
- グリル使用時は、グリルバーナーに点火していることを必ずご確認ください。

(左右こんろ)

(グリル)

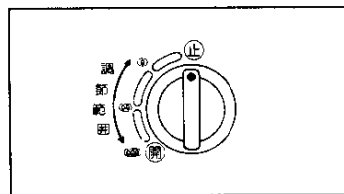


使用手順②

空気調節

- 空気調節の必要のない構造になっております。点火したらそのままお使いください。

火力調節



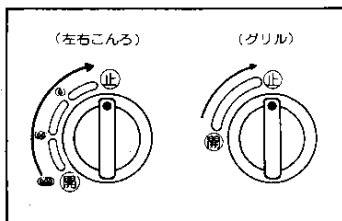
- こんろ部(左右)
- 火力切替え式の器具せんにより、火力の調節が容易にできます。
④が「全開」③が「中火」②が「小火」になっています。④位置より③②①の位置にすると、それぞれの位置で「カチッ」と音がして軽くなります。
●火力マークの間でも使用できます。

〈ご注意〉

- ②と「止」の間で使用するときは炎が小さく、消えやすくなりますのでご注意ください。
- ②から③の位置にするときは、一旦④の位置までまわしてから③の位置に戻してください。
- ③から④の位置にするときは器具せんつまみをゆっくりとまわしてください。
- グリル部
- 器具せんつまみは全開でお使いください。

使用手順③

消火(こんろ部・グリル部)

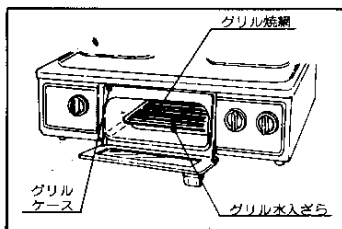


- 器具せんつまみを押さないで右へいっぱい止めの位置まで完全にまわして消火してください。

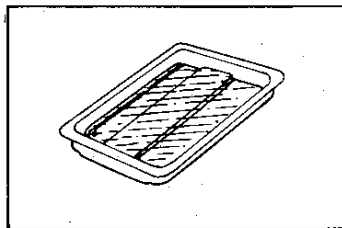
〈ご注意〉

- 必ず火が完全に消えたか確認してください。
- 消火後すぐにご使用になる場合は、数秒程まってから点火してください。
- 長時間使用されないとき(就寝時、外出時など)は、器具せんつまみをしめるだけでなく必ずガス元せんを止めてください。

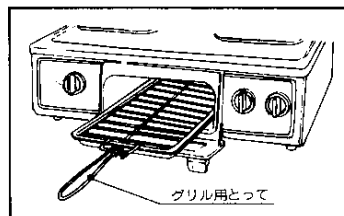
グリル部の使い方



- グリル水入ざらはグリルケースの底におき、奥にあたるまで入れてお使いください。
- グリル焼網はグリル水入ざらの中においてお使いください。
- グリル焼網は表と裏で高さが変わりますので、焼きものの種類、大きさによって使い分けてください。
- グリル使用時は必ずグリル水入ざらに水を入れてください。使用後のお手入れが簡単になります。グリル水入ざらの内面凸部が水にひたる程度の量(コップ1杯強約200cc)が適量です。(焼網がひたるまで水を入れないようにしてください。)
- グリル水入ざらに水を入れる場合は、一旦グリルとびらをあげ、グリル水入ざらをグリル用としてで少し引出してからコップなどで入れてください。いっばいに引出しすぎないようにご注意ください。なおとびらに水をこぼさないようご注意ください。



使用手順④

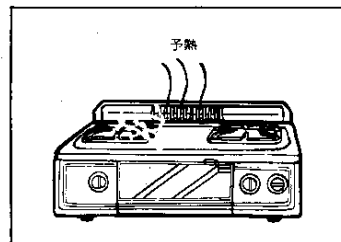


- 焼物はグリル焼網に合った大きさに切り、グリル焼網にのせて焼いてください。
- グリル焼網はかならず付属のグリル用としてで、グリル水入ざらといっしょに出し入れしてください。

上手なグリルの使い方

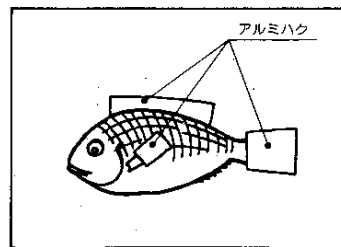
●予熱

- 表面のごげやすいもの(つけ焼、照焼、粕漬けなど)や、火の通りの悪い魚などは、予熱しないでそのまま焼きます。
- それ以外の魚は、点火後約3分予熱して温度が上がってから材料を入れてください。このときには、グリル焼網も同時に熱しておくとかっつきにくくなります。



●魚焼きのコツ

- ごげやすい部分やヒレなどには厚目に塩をふりかけるか、アルミハクで包んで焼きます。
- みそ漬けや粕漬けは、みそや粕を十分にふきとってから焼きます。

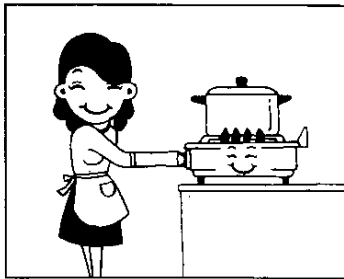


使用時のご注意

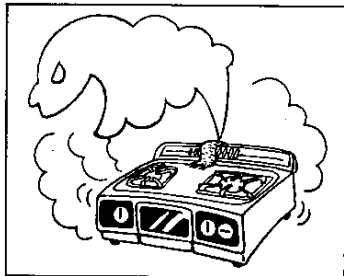
- 煮こぼれは器具を早くためますのでご注意ください。煮こぼれた時は、必ず完全にふきとってください。煮こぼれで炎口がつまると炎が逆流して、器具の内部で燃えるおそれがあり危険です。



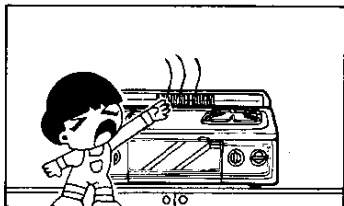
- 点火の際は、こんろになべやヤカンをかけて点火し、全部の炎口に点火したことを確かめてください。



- グリル使用中、後部の排気口の上に物をのせないでください。不完全燃焼や異常過熱の原因になります。



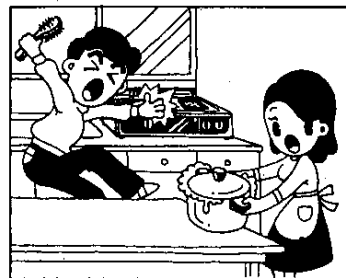
- 使用中および使用直後は排気カバーが高温になっています。排気カバー操作時はやけどをしないようご注意ください。



日常の点検・手入れ

点検・手入れの際のご注意

- 点検・手入れについては、下記の日常の点検以外は大阪ガスサービスショップまたは大阪ガス支社に依頼してください。
- 点検で異常を見つけられたときは、大阪ガスサービスショップまたは大阪ガス支社に修理を依頼してください。
- 点検・手入れの前には必ずガス元せんを閉じ、器具が冷えてから行なってください。



点 検

- 安全にお使いいただくためにときどき点検してください。
- ゴム管はガス用ゴム管を使用し、器具およびガス元せんともホースエンドの赤線まで十分差し込み、ゴム管止めで止めてありますか。
- ゴム管が器具に触れたり、折れたり、ねじれたりしていませんか。
- ゴム管が古くなってひび割れしたり、差し込み口がゆるんでいるためガスがもれていないか、ときどき石けん水などで点検してください。
- 器具の近くに紙、プラスチック、油類など燃えやすいものを置いてはいませんか。
- パーナートップ、ごとく、しる受け、排気カバーなどが正しくセットされていますか。
- パーナートップの炎孔が煮こぼれなどで詰っていませんか。
- グリル水入ざらに多量の脂がたまっていませんか。
(脂がたまったまま使用しますと脂が燃えることがあります。)

お手入れ

- ごとか・しる受け・煮こぼれカバーリング・排気カバー・グリル水入さざら・グリル焼網
- そのつどお手入れしていただくのがいちばんです。汚れがひどいときは洗剤をふくませたナイロンタワシで洗っていただき、お手入れ後は乾いた布で十分水気をとっておいてください。

〈ご注意〉

- お手入れのとき、器体内部機構に水がかからないようにご注意ください。
- 煮こぼれカバーリングは左右異なりますので、外された場合は必ず「H」印の煮こぼれカバーリングは左側でお使いください。

●トッププレート・器体

- 煮こぼれなどの汚れは湿った布でふきとってください。なおとれにくいときは、液状の洗剤を布にふくませて汚れを落とし、お手入れ後はよくしぼった布で洗剤を十分ふきとってください。

●グリルとびら

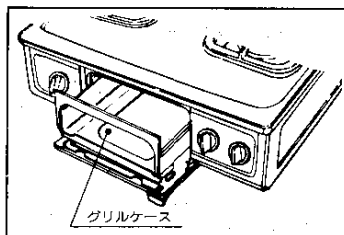
- ガラスに油などが飛散した場合は、そのつどまだ暖いうちに汚れを落してください。

〈ご注意〉

- ガラスはミガキ砂や金属片、金タワシなどでこすらないでください。印刷がはげたり、キズをつけると割れる原因になります。

●グリルケース

- 特に脂が多量に出るような料理をされたあとは、煙の出る原因となりますのでごびりついた脂をふきとるか、洗剤をふくませたナイロンタワシで洗っていただきお手入れ後は乾いた布で十分水気をとっておいてください。グリルケースは手前にひっぱると簡単に引出せます。



〈ご注意〉

- グリルケースの出し入れは、必ずグリルとびらを完全に開いてからおこなってください。
- グリルケースは掃除、修理などの他は引出さないようにしてください。出された場合は、必ず十分奥に当るまで入れておいてください。グリルとびらが完全にしまらないと焼けムラの原因になります。

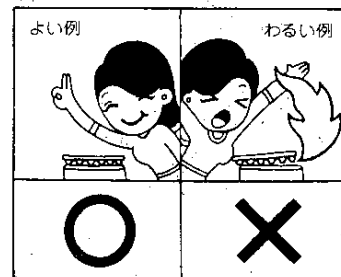
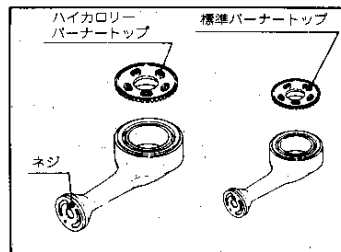
●バーナー(こんろ用)

- バーナートップをとりはずしブラシやキリ状のものでそうじしてください。目づまりなどで悪くなったバーナーは、取り替えていつもきれいな状態で使用してください。バーナーを目づまりさせたまま使用しますと、不完全燃焼をおこすことがあります。



〈ご注意〉

- バーナートップの水洗いはできるだけさけ、水洗いされた場合は必ず乾いた布で十分水気をとっておいてください。
- バーナートップは左(ハイカロリーバーナー)と右(標準バーナー)は異なりますので外された場合、左右間違いないように取りつけてください。
- バーナー本体を取り外された場合は正しくセットしてください。(詳しくは9ページ、●部品の取り付けの項をお読みください)なお空気調節器を止めているネジは絶対に動かさないでください。
- バーナー本体の水洗いはやめてください。中がさびる原因になります。



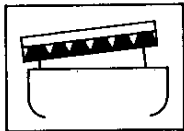

- 点火操作の火花の出る部分はさわらないでください。取付位置が狂いますと点火しなくなります。また火花の出る先端に手をふれたまま器具をふんつまみを操作しますと電気ショックを受けますからご注意ください。(ただし人体には害はありません)
- 器具内の配線にはさわらないでください。

と き ど 前

そ の つ ど

故障・異常の見分け方と処置方法

ご使用中にふだんと違った状態になったときや、不都合が生じたときは、そのまま使いにならず、直ちにご使用を中止して十分な点検をお願いします。

故障状況	原因	処置
点火時、使用中ゴーゴーと音がする	○バーナートップがバーナー本体に正しくはまっていない。 	○バーナートップをバーナー本体に確実にはめる。 〈ご注意〉 バーナートップおよびバーナー本体は高温になっていますので注意してください。  ○一度火を消し、しばらくしてもう一度点火の操作をする ○それでも音がする場合は、大阪ガスサービスショップまたは大阪ガス支社へ修理を依頼してください。
「パチパチ」と音がして電池確認ランプもつかが点尖しない	○ガス元せんがしまっている。	○ガス元せんをあける(全開にする)
	○ゴム管の折れ ○その他	○ゴム管を調べ、折れのあるときはなおす。 ○大阪ガスサービスショップまたは大阪ガス支社へ修理を依頼してください。
「パチパチ」と音がして火花が飛ぶが電池確認ランプがつかない	○電池が消耗している。	○新しい電池と取り替える。電池の取り替えは10ページをご覧ください。
	○その他	○大阪ガスサービスショップまたは大阪ガス支社へ修理を依頼してください。
火花も飛ばないし、電池確認ランプもつかない	○電池の取り付けが悪い。	○電池が正しく取り付けられているかどうかを確かめる。
	○電池が消耗している。	○新しい電池と取り替える。電池の取り替えは10ページをご覧ください。
	○その他	○大阪ガスサービスショップまたは大阪ガス支社へ修理を依頼してください。

故障・異常の見分け方と処置方法②

炎の先端が黄色くなりなべなどにすすがつく	○バーナーが煮こぼれ汁でつまっている。	○バーナーを掃除する。それでもなおらない場合は、大阪ガスサービスショップまたは大阪ガス支社へ修理を依頼してください。
ガスの臭いがする	○ゴム管(接続)の不良。	○ゴム管接続のゆるみ、ゴム管のヒビ割れを調べ、不良のときは取り替える。
	○ゴム管以外のところからガスがもれている。	○お部屋のガス元せんを閉じ、大阪ガスサービスショップまたは大阪ガス支社へ修理を依頼してください。
	○不完全燃焼	○バーナートップ、ごとくが正しくセットされているかを確認する。正しくセットされているのに不完全燃焼している場合は、器具の使用を中止して大阪ガスサービスショップまたは大阪ガス支社へ修理を依頼してください。

長期間使用しない場合

- 各部の汚れを取り除き、十分に乾燥したのちほこりなどの異物が入らないようにビニールをかけて、お求めになったときの箱に入れ、湿気やほこりの少ないところへ保管してください。特にガスの通路部分(ホースエンドなど)にはほこりが入って通路をつまらせないように注意してください。

アフターサービスのお申し込み

サービスのお申し込み

- 21ページ「故障・異常の見分け方と処置方法」の項を見て、もう一度ご確認ください。
- 確認のうえ、それでも不具合な場合、あるいはご不明な場合はご自分で修理なさらないで買い求めの販売店、またはもよりの大阪ガス支社にご連絡ください。なお、ご連絡いただくときは、次のことをお知らせください。
 - ①品名……(テーブルコンロ)
 - ②品番……左側面に添付してあります。
(例)

(4) 10-287 (U)

大阪ガス株式会社 05

- ③現象……(できるだけ詳しく)
- ④道順……(できるだけ詳しく)

転居される場合

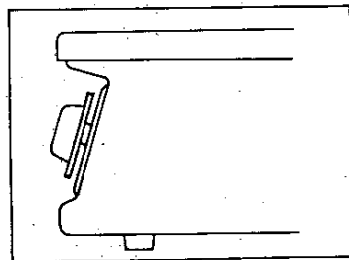
- ガスには都市ガス14種類およびLPガスの区分があります。ガスの種類が異なる地域へ転居される場合は、部品の交換や調整が必要となりますので、転居先のガスの種類を確認のうえ、買い求めの販売店またはもよりの大阪ガス支社にご相談ください。この場合調整・改造に要する費用は保証期間内でも有料となります。

保証書について

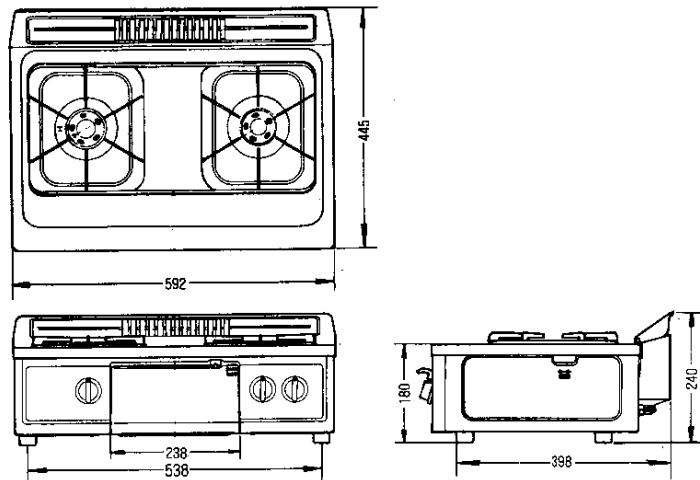
- この器具には保証書がついています。このテーブルコンロは保証書に記載のように、器具の故障について修理いたします。詳しくは保証書をごらんください。保証書を紛失されますと、無料修理期間であっても修理費をいただくことがありますので、この取扱説明書とともに大切に保管してください。

特長

- 1 グリル後方排気方式の採用で、従来のグリル付とちがってグリル内部に煮こぼれが落ちず、またグリル回りも汚さずに清潔にお使いいただけます。
- 2 トッププレート中央にグリル排気口がありませんので、グリルの排気熱で鍋の取手が熱くなることはありません。
- 3 こんろの器具せんはよく使用する強火・中火・小火の位置に「カチッ」という音と軽い手応えで容易に合わせることができます。
- 4 トッププレート、しる受けとも清潔なホーロー仕上げ、しかも煮こぼれカバーリング付で、料理中のふきこぼれが器具の下に流れにくくなっています。
- 5 左側こんろは火力の強いハイカロリーバーナーですので、炒めものや中華料理などにお使いください。又急ぎのときなどお湯を早くわかすことができます。
- 6 点火は電池による連続放電点火式ですので点火操作が軽快で確実です。
- 7 電池確認ランプがついておりますので、点火用の電池交換の時期が一目でわかります。
- 8 グリルは赤外線バーナーを採用、しかも上火式で料理中の煙も焼き切りますので、ほとんど煙が出ません。
- 9 デザイン面で、前面をオーバーハング方式にしてつまみ類の飛び出しを少なくしておりますので、比較的汚れやすい前面パネル、器具せんつまみ部が汚れにくくなりました。



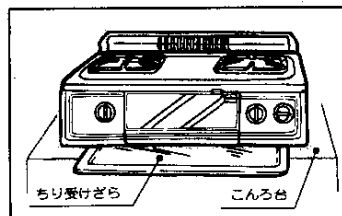
寸法図と仕様一覧表



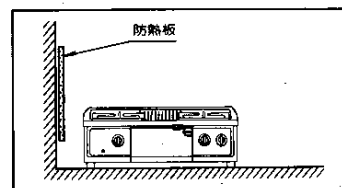
器 種 名	グリル付ニロコンロ					
品 名	10-287(U)					
点火方式	連続放電点火					
外形寸法	高さ180mm(トッププレートまで)×巾592mm×奥行445mm					
重 量 (器具)	12.5kg					
使用ガス 使用ガスグループ	1時間当りのガス消費量				ガス接続	
	個別ガス消費量			全点火時 ガス消費量		
	こんろ(右)	こんろ(左)	グリル			
都市ガス用	6 C (kcal/h)	2,300	3,050	1,750	6,500	φ9.5mm ガス用 ゴム管
	13 A (kcal/h)	2,400	3,100	1,750	6,900	
	6 A (kcal/h)	2,200	3,050	1,700	6,500	
LPガス用(kg/h)	0.190	0.240	0.138	0.56		

別売部品のご紹介

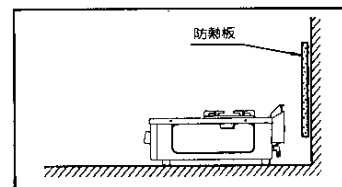
次の様な別売部品を用意しています。大阪ガス支社、サービスステーション、サービスショップでお求めください。



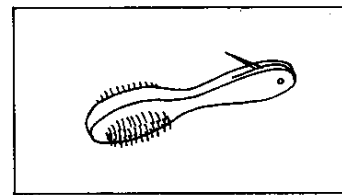
- ちり受けざら(コードNo:15-100-0081)
- 図のように器具の下、ガス台の上に設置してください。器具の下に落ちた煮こぼれはちり受けざらの上に落ちます。ときどきとり出して掃除していただくと、ガス台を汚さずに使用できます。



- 防熱板(コードNo:15-100-0084~6)
- 設置場所で、可燃性の壁(ステンレス板等を張りつけた可燃性の壁も含む)から15cm以上離して設置できない場合、図のように取り付けて使用してください。



- 掃除ブラシ(4)94-100
- バーナーが目づまりしたときに掃除していただくと安定した燃焼が得られ、効率よく安心して使っていただけます。



おねがい

カスくさいときは、お部屋の元せんを閉め、窓を全開してから(火気に注意して)大阪ガス支社、サービスステーションにご連絡ください。